

単位数	教科担当者	使用教科書・補助教材・その他
3		使用教科書 「詳説 世界史」 (山川出版社)
○必修 学校必修 必修選択 自由選択	角 田 展 子 真 柴 晶 彦 日下部 公 昭	補助教材 「グローバルワイド 最新世界史図表」 (第一学習社) 「世界史B 用語集」 (山川出版社) 「詳説世界史 10分間テスト」 (山川出版社)

◆学習の目標

- ・世界の歴史を総合的に理解する。
- ・歴史の見方・思考力を育み、国際社会を主体的に生きる社会人としての資質を養う。

◆主な学習内容・方法

- (1) 教科書第10章～第13章中心
- (2) 教科書を中心教材として、随時副教材を使用しながら世界史の近世史を、主として講義形式で学習する。

◆到達目標と評価の観点

- [標準]
- ・18～19世紀の世界史の歴史的諸事象の内容を正確に理解し、時系列上での的確に把握する。
 - ・事象の内容や事象間の因果関係を的確・簡潔に表現できる。
- [応用]
- ・市民革命、産業革命をへて、産業社会、国民国家の形成にいたる過程を多角的な視野で理解することで、現代における諸問題を考察する糧とする。
- [評価の観点]
- ・「知識・理解」「資(史)料活用力・的確で簡潔な表現力」「思考力・判断力」を評価する。

◆評価の方法

- ・評価は定期考査の結果を中心とし、校内学力テスト、課題等の提出物、毎回の授業に対する意欲、歴史に対する興味・関心等を加味する。年間5回の定期考査は全クラス共通問題とする。

◆年間予定授業時間

予定時数	105時間	1学期 (39時間)	2学期 (42時間)	3学期 (24時間)

◆学習のしかた（予習・復習・宿題・課題・その他）

予習…教科書を事前に通読する。教材プリントを行う。
復習…授業の板書ノートと教科書・「世界史用語集」・「図表グローバルワイド」を関連させ整理する。地図帳を開いて、世界史で学んだ場所の確認を行う。

◆授業計画

学期	月	単元・教材等	単元ごとの時間数	学習の内容	注意すべきこと
1 学期	4	第10章 近代ヨーロッパ・ア	9 1 2 1 8	世界最初の産業革命 機械の発明と交通機関の改良	木綿工業 石炭 製鉄 資本主義
	5	アメリカ世界の成立		資本主義体制の確立と社会問題の発生	独立宣言
	6	1.産業革命		北アメリカ植民地の形成	連邦主義と反連邦主義
	7	2.アメリカ独立革命 3.フランス革命と ナポレオン		アメリカ合衆国の独立 憲法の制定 フランス革命の構造 立憲君主政の成立 戦争と共和政 革命の終了 皇帝 ナポレオン	革命中の政体の変遷 ベルリン勅令 大陸支配の意義
2 学期	8	第11章 欧米における近代 国民国家の発展	1 2 1 2 6 2 6 4	ウィーン会議 ウィーン体制の動揺 フランス七月革命 イギリスの自由主義的改革 ギリシア独立と東方問題	自由主義と国民主義 の時代背景 社会主義思想の成立と発展
	9	1. ウィーン体制の成立		社会主義思想 1848年革命 クリミア戦争 ロシアの改革	1848年革命の意義 国際体制の変化
	10	2. ヨーロッパ再編と 新統一国家の誕生		ヴィクトリア期のイギリス フランス第二帝政と第三共和政	イタリア、ドイツの統一 の共通点と相違点
	11	3. アメリカ合衆国の 発展		イタリア・ドイツ統一 ビスマルク外交 ラテンアメリカの独立 アメリカ合衆国の領土拡大 南北戦争	アメリカ合衆国の発展 南北戦争の意義
	12	4. 19世紀欧米の文化 第12章 アジア諸地域の動揺		市民文化の潮流 近代大都市文化の誕生 オスマン帝国支配の動揺 オスマンの改革 インドの植民地化 インド大反乱とインド帝国 東南アジアの植民地化	貴族文化から市民文化の時代へ ヨーロッパの進出に対するアジアの対応
3 学期	1	3, 東アジアの激動 第13章 帝国主義とアジア の民族運動	6	清朝の動揺とヨーロッパの進出 欧米諸国との条約 国内動乱と近代化の始動 東アジア国際秩序の再編	欧米列強による アジア進出の経緯 中国半植民地化の過程 日本の近代化と アジア進出の経緯
	2	1. 帝国主義と列強 の展開	6	第2次産業革命と帝国主義の成立 アフリカの植民地化 太平洋諸地域の分割 ラテンアメリカ諸国の従属	帝国主義時代の世界 世界分割の過程 列強の二極分化
	3	2. 世界分割と列強 対立 3. アジア諸国の改 革と民族運動	6 6	中国分割の危機 日本の韓国併合 辛亥革命 アジア各地の民族運動	日露対立と列強 辛亥革命の意義 インド、東南アジア、西 アジアの民族運動